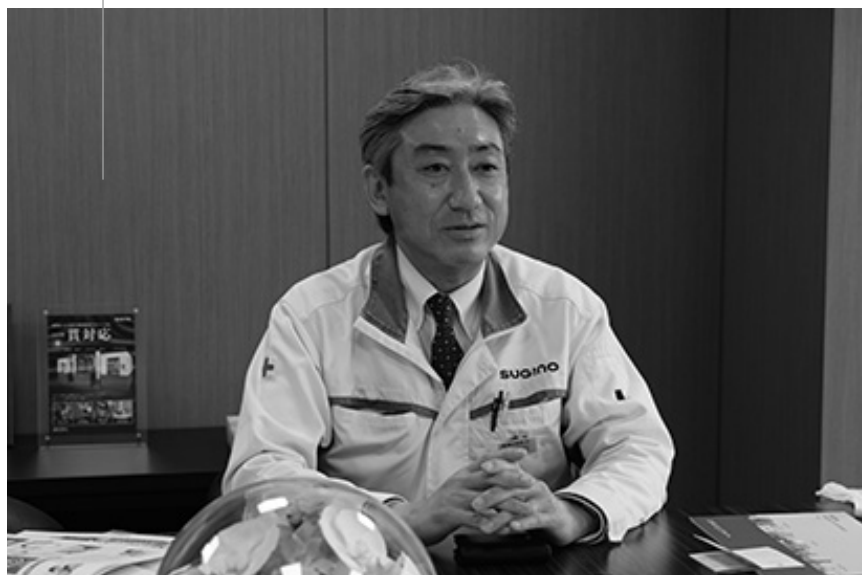


超技術で未来に貢献 グローバルニッチを切り拓く

株式会社スギノマシン
代表取締役社長

杉野 良暁 氏



高圧水による切断技術や、バイオマスナノファイバーなど、独自の市場を開拓しておられます。沿革をお伺いします。

1936年に大阪で祖父の杉野林平が「杉野クリーナー製作所」を創業し、ボイラーなどの熱交換器内部の管を清掃する工具「水圧式チューブクリーナー」の製造を始めました。当時は蒸気機関車や艦船の動力にはボイラーを使用しており、クリーナーは輸入品しかなく、当社が初の国産品を開発しました。

戦時中に創主の故郷である魚津に工場を疎開させ、そのまま富山県で事業を続けてきました。

「チューブクリーナー」は先端についた刃を回転させて管の汚れを削り取る工具で、回転の動力は水圧と空気圧の2種類があります。水圧の技術はウォータージェットへ、空気圧はドリルユニットやマシンニングセンタなど工作機械の技術へと繋がっていきます。

さらに両技術を融合し、工作物のバリを水の力で精密に除去する

「NC高圧水部品洗浄機」が生まれました。同様の装置を作るメーカーは他にもありますが、ポンプから自社製なのは当社だけです。

創業期からの技術が枝分かれして発展してきており、そのすべての技術を自社でまかなっているという信頼性が強みです。

－社内の技術交流を促す－

技術革新を続けるための取り組みを教えてください。

「自ら考え、自ら造り、自ら販売・サービスする」という創業の精神を分かりやすく社内に浸透させるため、2016年の創業80周年の際に若手社員が中心となってブランドの再構築を行い、「スギノフィロソフィ」を策定しました。

その中で、我々のミッションを「真心創り・もの創り・未来創り」、目指すビジョンを「グローバルニッチリーダー」、大切にしたいバリューを「CLEANer (Challenging/Leading/Encouraging/Aspiring/Never give up)」と掲げました。

大きな市場でなくてもニッチな分野でトップを目指し、ものづくりを通して明るい社会に貢献したいという思いを込めています。これらは、毎年作成するポケットカレンダーに印刷して携行し、各職場で活用しています。

多彩な商品群ですが、技術の伝承などはどのようにされていますか。

ニッチなご要望にもお応えするスギノマシンらしさによって、以前は多岐にわたる商品群ごとに5つの事業部がありました。同じ会社でありながら部署が違くと文化も風土も違うと感ずることもありました。

そこで2014年に組織を大改編し、「精密機器事業本部」と「プラン

ト機器事業本部」の2つにまとめ、人事面でも可能な限りローテーションを行うようにしました。今年4月にも部署間の風通しをさらに良くしたいという現場の意見を反映し、精密機器事業本部内の組織体制を再編しました。社内でありながら技術者の交流は刺激になるようで、イノベーションが生まれてきています。

また、80周年のブランド再構築以降はお客様や技術にまっすぐ向き合う「スギノマシンらしさ」から策定したPI (プロダクトアイデンティティ) に基づき、製品デザインに全社で統一性を持たせています。2019年にはデザイン性に優れた製品を選ぶ日本インダストリアルデザイナー協会主催の「JIDAデザインミュージアムセレクション」に、自動車や日用品などと並んで当社の機械が選ばれました。

－豊富な技術の引き出し－

昨年、微粒テストセンターを開設されました。

ウォータージェット技術を応用した「湿式微粒化装置」の生産力増強とテスト体制強化を図りました。この製品は原料を水に混ぜ、2方向から超音速でぶつけ合うことでナノレベルに粉碎する機械です。材料同士をぶつけるため、不純物が混じることなく微粒化できます。プリンタートナー、化粧品、

医薬品や化学メーカーの新素材に使われています。近年は電子部品の微粒化や環境対策などで需要が高まり、多方面からお声がけをいただいています。

初めての素材を扱うことが多いのですが、お客様にご満足いただけるまでテストやラボ機の試作を繰り返しており、お客様からの高い評価を感じています。

新素材のバイオマスナノファイバーの生産にも取り組まれています。

自社の「湿式微粒化装置」を使って2011年から生産しています。機械設備は景気の波の影響を受けやすいため、新たな事業の柱を作りたいと、素材の開発製造に乗り出しました。環境対策から注目される素材で当社が得意とするニッチな分野の製品です。小粒でも光る事業にしたいと思っています。

今後の見通しをお聞かせ下さい。

大きな時代の転換点にあり、先行きは不透明ですが、当社には、地球温暖化対策をはじめ社会貢献できる技術が色々あると考えています。今まで日の目を見なかった技術でも、省エネや環境対策を訴求することで、飛ぶように売れるケースがあります。また、創業当初から作る拡管工具の技術を応用した金属の表面処理工具は、様々な分野で使われ続けていて、もっと色々な展開ができないかと考えています。社員には多様な引き出しを持って、面白いことをしてい



こうといつも投げかけています。

さらに、ICTやAI、搬送ロボットなどを手掛ける「RI事業部」を昨年12月に新設しました。社内の様々な技術の連携をハード面だけでなく、ソフト面でも強化していこうと考えています。

働く環境についてはいかがですか。

2018年に滑川事業所内に保育園「彩りの社」を開設しました。多くの社員が利用しており、安心して働ける環境を整えました。男性の育休取得も増えてきています。

コロナ禍の影響で当社でも急速にテレワークが浸透しましたが、もともとシステムは整えてあり、十分仕事ができることが分かりました。海外とのやり取りや、お客様との図面の確認や納品前の立ち会いチェックなどはWEBに代わり、アフターコロナでも活用できると思っています。

座右の銘をお伺いします。

「至誠通天」です。入社してから営業として様々なお客様と接し、中国進出した時にも現地の人と交渉しました。苦労もりましたが、真心は必ず通じると思っています。

会社概要

株式会社スギノマシン

創 業：1936(昭和11)年3月
所 在 地：魚津市本江2410番地
資 本 金：23億2,467万5,000円
事業内容：高圧ジェット洗浄装置、超高圧水切断装置、原子力発電所検査保守用機器、湿式・乾式微粒化装置、各種工作機械・工具等の開発・設計、製造販売
従業員数：1,460名(2021年3月現在、グループ連結)
売 上 高：252億円(2021年3月期、グループ連結)
事 業 所：製造3拠点、営業9拠点
関連会社：(株)スギノダイレクトサービス、共立精機(株)、海外現地法人10社
U R L：https://www.sugino.com/